

# 第6章

## 形容詞・副詞

### 第1節 形容詞

#### 1. 形容詞とは

「**形容詞**」とは、「**モノ（名詞）の状態や様子**」を表す言葉のことです。形容詞には、「**名詞を修飾する**」あるいは「**補語になる**」という2つの働きがあります。

なお日本語の文法では、単語の語尾が「-い」となっており、この語尾の「-い」が「-くない」と変化することによって「否定の意味」になる言葉のみが「形容詞」として分類されます。（例：「寒い」→「寒くない」など。）

つまり、日本語では「**言葉の形**」によって、その単語が形容詞であるか否かが判断されますが、英語では「**言葉の働き**」（つまり、文中で「**名詞を修飾する**」や「**補語になる**」といった働きをするかどうか）によって、その言葉が形容詞であるか否かが判断されるのです。

#### 2. 形容詞の用法（「**限定用法**」と「**叙述用法**」）

形容詞には、「**限定用法**」と「**叙述用法**」という2つの用法があります。形容詞によって、「**限定用法**」と「**叙述用法**」のどちらか一方でしか使えないものや、「**限定用法**」と「**叙述用法**」で意味が異なってしまうものなどがあるので、辞書などで1つ1つの形容詞の使い方を確認しましょう。

##### (1) 形容詞の「**限定用法**」

文中の「**形容詞**」を「**修飾部分**」として用い、「**名詞を修飾する**」という働きとして機能させる用法を「**限定用法**」と言います。「**名詞を修飾する**」ということは、「**名詞の意味の範囲を狭くする（つまり限定する）**」ということであり、このことから、「**形容詞が名詞を修飾する用法**」を「**限定用法**」と呼ぶのです。

（★「修飾する」→P.8 参照。）

例1：She has **beautiful** flowers.

「彼女は**美しい花**を持っています。」

（形容詞「**beautiful**」は、名詞「**flowers**」を修飾し、その意味の範囲を狭くしている（限定している）。）

例 2 : Let's drink **something cold**.

「何か冷たいものを飲みましょう。」

(形容詞「cold」は、代名詞「something」を修飾し、その意味の範囲を狭くしている(限定している)。「-thing」「-one」「-body」などで終わる「複合語」を修飾する場合の形容詞は、その複合語の「後ろ」に置かれる。)

例 3 : The **poor kid** was shaking.

「そのかわいそうな子供は震えていた。」

(形容詞「poor」は、名詞「kid」を修飾し、その意味の範囲を狭くしている(限定している)。「かわいそうな」の意の「poor」は「限定用法」のみで使われる。)

例 4 : My **elder brother**, Danny, tried to help me.

「私の兄、ダニーは私を助けようと試みた。」

(形容詞「elder」は、名詞「brother」を修飾し、その意味の範囲を狭くしている(限定している)。「elder」は「年上の」の意を表し、「限定用法」のみで使われる。「年上の」の意の言葉を「叙述用法」で使いたい場合には「elder」ではなく「older」が使われる。)

## (2) 形容詞の「<sup>じよじゆつ</sup>叙述用法」

文中の「形容詞」を「動詞の補語」として用いる用法を「叙述用法」と言います。「叙述」という言葉の「叙」と「述」という字は、どちらも「述べる」という意味を持っています。形容詞が文中で「補語」となっている時、その形容詞は「述語動詞(V)」と共に「**文の結論を述べる部分**」として機能します。このことから、「形容詞が補語になる用法」を「叙述用法」と呼ぶのです。

(★「補語」→P.7 参照。)

例 1 : Her flowers are **beautiful**.

「彼女の花は美しい。」

(形容詞「beautiful」は、be 動詞「are」の主格補語となり、主語(名詞)「flowers」とイコールの関係になっている。「are beautiful」のかたまりで「文の結論」を述べており、形容詞「beautiful」はその一部となっている。)

例 2 : We were very **poor** during the war.

「私達は戦争の間、とても貧しかった。」

(形容詞「poor」は、be 動詞「were」の主格補語となり、主語(代名詞)「we」とイコールの関係になっている。「were poor」のかたまりで「文の結論」を述べており、形容詞「poor」はその一部となっている。「poor」は「叙述用法」では「かわいそうな」の意ではなく、「貧しい」の意となる。)

## 第2節 副詞

### 1. 副詞とは

「副詞」は、主に「動詞」や「形容詞」や「副詞」を修飾する品詞です。時には「句全体」「節全体」「文全体」「述部全体」のように、文の中の様々な部分を修飾することもあります。原則的には、副詞は「動詞・形容詞・副詞」を修飾するものだ、と覚えておくと良いでしょう。

### 2. 副詞の基本的な働き

#### (1) 「動詞」を修飾する副詞

「動詞」を修飾する副詞には、「その時」「ここで」「ゆっくり」「はっきり」「時々」など、主に動詞の「動作の時間・空間・状況・様態・頻度」などについて述べるものがあります。

例：I quietly opened the door.

「私はそのドアを静かに開けた。」

(副詞「quietly」は動詞「opened」を修飾している。)

#### (2) 「形容詞」や「副詞」を修飾する副詞

「形容詞」や「副詞」を修飾する副詞には、「とても」「かなり」「少し」「やや」など、主に形容詞や副詞の「程度」などについて述べるものがあります。

例1：This coffee is very hot.

「このコーヒーはとても熱い。」

(副詞「very」は形容詞「hot」を修飾している。)

例2：He was running pretty fast.

「彼はかなり速く走っていた。」

(副詞「pretty」は副詞「fast」を修飾している。)

#### (3) 「句全体」や「節全体」や「文全体」や「述部全体」を修飾する副詞

例1：The police officer was right in front of the building.

「その警察官はその建物のちょうど目の前にいた。」

(副詞「right」が、「in front of the building」の「句全体」を修飾している。)

例2：I had a car accident, but fortunately, I was not hurt at all.

「私は自動車事故にあった。しかし幸運なことに私は少しも負傷しなかった。」

(副詞「fortunately」が、後ろに続く「節全体」を修飾している。)

例3：I was a college student then. 「その時、私は大学生だった。」

(副詞「then」が、「was a college student」の「述部全体」を修飾している。特に「S

+ V + C」の形の第2文型でよく見られる。)

## 第3節 比較

### 1. 比較とは

「**比較**」とは、「1つの対象物」について述べるのではなく、「2つ」もしくは「3つ以上」の対象物について、それらの間の「差」や「違い」について述べる表現のことで、

#### (1) 比較の表現の英語と日本語の違い

英語と日本語では、「比較」の表現の仕方が異なります。英語では、比較の表現を作るためには「**形容詞**」や「**副詞**」を**変化させなくてはなりません**が、日本語ではその必要はありません。

例えば、日本語で「彼は若い。」という文があったとして、これに「私の息子より」という表現を加えると、「彼は**私の息子より**若い。」という「比較」を表す文ができあがります。この時、「私の息子より」という表現を加える以外には、元の文の「彼は若い。」の部分に変化はなく、形容詞である「若い」という言葉についても変化はありません。

ところが、英語で「**He is young.** (彼は若い。)」という文があったとして、これに「**than my son** (私の息子より)」という部分を加えれば「比較」を表す文が完成するかと言えば、そうはなりません。この文の場合、「**young** (若い)」という「形容詞」そのものを「**younger**」という形に変化させなくてはならないのです。文全体では「**He is younger than my son.**」となります。

このように、英語で「比較」の文を作る際は、「**形容詞**」あるいは「**副詞**」の形を**変化させなくてはならない**という点に注意しましょう。

#### (2) 比較の種類

英語の「比較」の表現には「**原級比較**」「**比較級比較**」「**最上級比較**」の3種類があります。

(a) 原級比較……「2つの対象物」の比較

◆英語での表現の仕方：「as」と「as」の間に「**形容詞か副詞の原級**」を置く。

◆日本語での表現の仕方：「AはBと同じくらい…だ」

例：Tom is **as tall as** Jane. 「トムはジェーンと同じくらい背が高い。」

(b) 比較級比較……「2つの対象物」の比較

◆英語での表現の仕方：形容詞や副詞を「**比較級**」へと変化させる。

◆日本語での表現の仕方：「AはBよりも、より…だ」

例：Tom is **taller than** Jane. 「トムはジェーンよりも、より背が高い。」

(c) 最上級比較……「3つ以上の対象物」の比較

◆英語での表現の仕方：形容詞や副詞を「**最上級**」へと変化させる。

◆日本語での表現の仕方：「(～の中で) 最も…だ」

例：Tom is the **tallest** in this class. 「トムはこのクラスの中で最も背が高い。」